様式3

技術開発完了報告

秋田営林局
能代営林署

課題名	アカマツ天然下種1類の施業体系について				
指示・自主区分	自主	開発期間	自 昭和63年 至 平成7年	担当	業務課 経営係
目標	アカマツ天然林保残伐施業地に、列状に保残した母樹と皆伐跡地における稚幼樹の成立本数と生育状況を調査しその施業体系を確立する。				
結果	アカマツの稚樹の発生状況と成長を試験地設定期間内に所定の調査を実施してきたが発生状況、成長状況も安定してきており更新を確認しているので本課題はこれで完了する。	技術開発経費内訳 <人工> 千円 物件費 役務費 人件費 基職 その他 合計			

開発経過と調査内容

1. 試験地の概要

昭和61、62年にアカマツ天然林を伐採、保残木施業地 148林班い小班、3.18 Ha 内に試験地として 1m×5m の調査プロットを3ケ所設定した。位置は別図のとおり

2. 調査結果と考察

昭和63年試験地設定後元年から平成7年までの稚幼樹の発生状況を見るとプロット内設定の次年度はほとんど発生が見られてないが2年目アカマツ及び有用広葉樹の発生が見られた。その後発生本数の変移が多少見られたが6年度、7年度の調査結果を見ると、約4000本程度で安定し更新完了となっている。有用広葉樹については調査年度の早い時期には多く見られたが現在は少くなっており、今後のアカマツの生長には影響が少いと考えられる。

3. まとめ

これまでの調査の推移を見るとアカマツ稚幼樹の発生状況、及び有用広葉の発生状況、成長を見ると母樹保残としての施業の更新状況を一定の確認出来たものと考えられる。

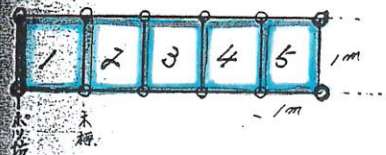
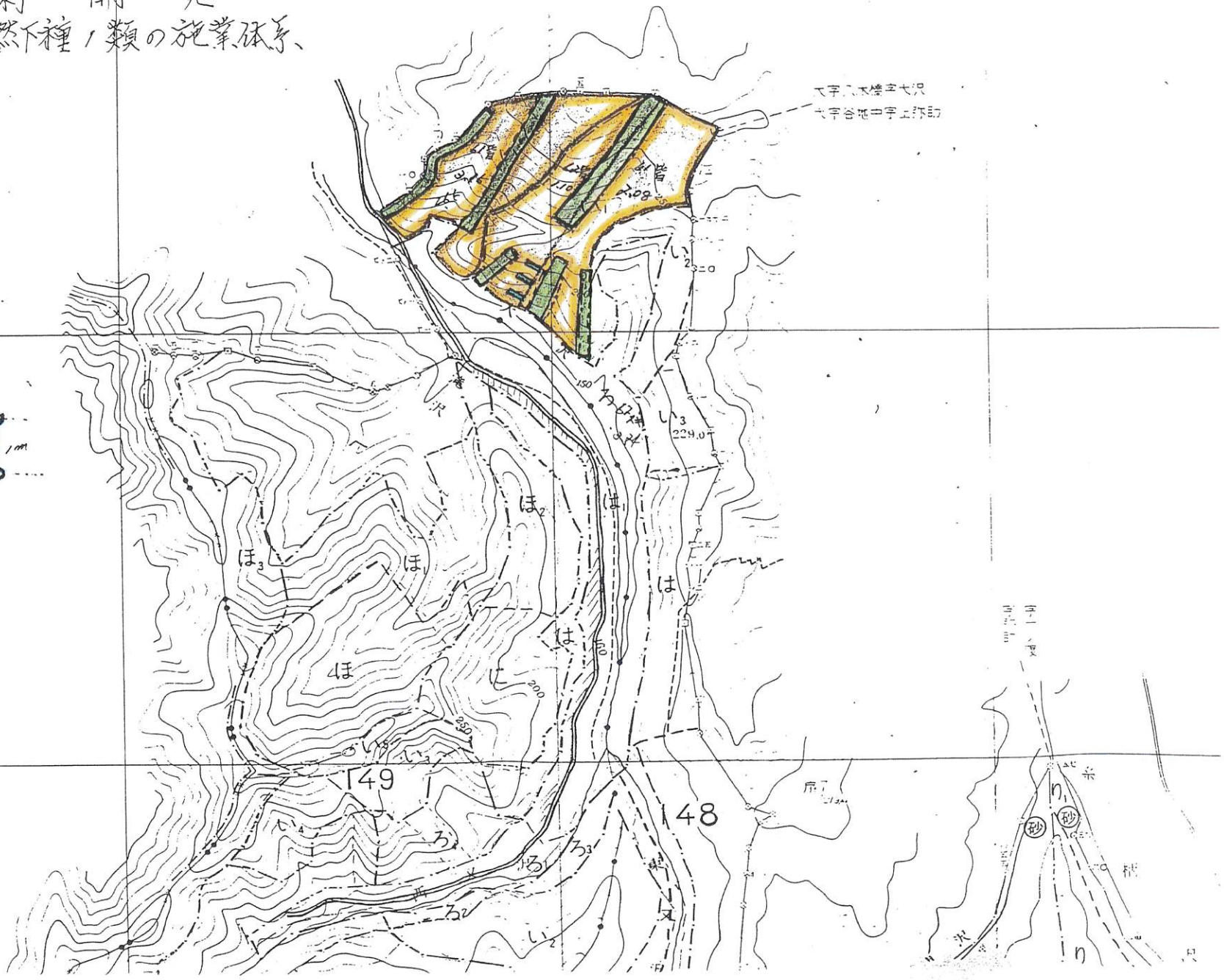
評価及び普及指導

図

技術開発

アカマツ天然下種1類の施業体系

凡例

- 皆伐地
- 列状保残地
- 標準地
- 天然人工林

標準地見取図